

10 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和6年10月10日（木）
 - 2 開 催 場 所 加古川市役所 新館9階191会議室
 - 3 出席した委員 小南教育長、溝口委員、播委員、土屋委員、小林委員
 - 4 出席した職員 鹿間教育総務部長、車谷教育総務部次長、
杉本教育指導部次長、
尾崎教育指導部学校教育担当参事、
井上教育指導部 部活動地域移行調整担当参事、
今津教育指導部教育支援推進担当参事、
真鍋教育指導部ダイバーシティ教育推進担当参事、
福本教育総務課長、松尾学務課長、横田学校施設課長
岡本社会教育課長、岡本学校教育課長、岡本教育支援課長、
坂本文化財調査研究センター所長
石坂少年自然の家所長、田中中央図書館副館長
小浦中央図書館指定管理施設担当副課長、
吉田教育総務課副課長
 - 5 傍 聴 者 なし
 - 6 議 事 の 要 旨
- 開 会 午後3時00分
 - 会議録署名委員指名のこと
播委員に決定
 - 9月定例教育委員会の会議録報告承認のこと
（事務局から会議録朗読報告）
一部表現を訂正のうえ、承認
 - 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(専決報告)

- 1 学校医の解職及び委嘱について
(教育総務部次長から説明)
承 認

- 2 加古川市社会教育推進員の解職及び委嘱について
(教育指導部次長から説明)
承 認

委 員 : 加古川市の社会教育推進員の総数は何名か。

事 務 局 : 375 名に委嘱している。原則各町内会につき 1 名だが、町内会の規模によっては複数名委嘱している場合もある。

- 3 令和 6 年度学校運営協議会委員の委嘱について
(教育指導部参事から説明)
承 認

委 員 : 加古川養護学校の委員 5 名の男女比は。

事 務 局 : 男性 4 名、女性 1 名である。

(協議事項)

- 1 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について
(教育総務部次長から説明)
次回の定例教育委員会において再度協議を行う

委 員 : 成果指標は年によって変わらないのか。

事 務 局 : 基本的には同じ指標を用いている。教育振興基本計画が一定の期間で事業・目標を設定しており、その中で、単年度ごとにアクションプランを作成し、単年度ごとの実施事業の自己評価を行っている。

委 員 : A 評価となった場合、更なる改善に繋げるアクションはあるのか。

事 務 局 : 常に見直しが必要との観点を持っており、毎年やり方や対象等についての検討を行い、改善に繋げている。

事 務 局 : インクルーシブ教育システムの構築について、令和 4 年度の実施に対する評価が A であったが、今回の評価が B となっている。これは、令和 4 年度に目標を達成したことから、成果指標をより高い数値に設定した結果である。

委 員 : この結果は学校現場にも共有されているか。

事 務 局 : 公開しており、教職員も見ることができる。
成果指標には全国学力・学習状況調査や学校調査等の結果も含まれており、現場の声を集約して評価を行っている。

委 員 : 取組の結果としてA・B評価が多いことは良いことだが、C・D評価が1項目しかないのであれば、C・Dに分ける意味があまりないのではないか。
PDCAサイクルで次に繋げることが大切であり、C評価でも次に繋がる提言があれば良いのではないか。

事 務 局 : 現状B以上の評価が多いのは成果指標が達成しやすい設定になっている可能性があり、改善点が見えにくいことは課題である。また、個別の事務事業評価シートにて、今後必要とされる事項を記載しているが、ご指摘のとおりである。
現在策定を進めている次期教育振興基本計画において、指標の設定や改善点の検討を進めていきたい。

委 員 : 重点目標⑩「教育を支える仕組みの確立」は最重要取組事項や個別の事務事業が無い。教育委員会として子どもを守り・育てることは非常に重要だが、教員を守り・育てる時代が来ていると感じる。今後の対策・方針について考えていることはあるか。

事 務 局 : C評価となった項目について残念に思っている。
風通しの良い職場環境づくりの面で、学校管理職に理解・協力を得ながら改善に取り組んでいる。中堅・ベテランの先生方から若い教員への積極的な声かけ等、支え合うような仕組みづくりを目指していきたい。

委 員 : 教職員の勤務時間の適正化について、定時退勤日・ノー会議デー・ノー部活デーの完全実施に取り組んでももらいたい。
他市町のように盆や正月の学校閉校日は設けているか。

事 務 局 : 加古川市も設けている。

委 員 : 学校生活適応推進事業の事務事業評価シートにおいて、成果指標として「いじめの認知件数：1,000件」とされている。見逃さないのは大切だが、いじめの認知件数が目標という点はいかがなものか。

事 務 局 : いじめの認知件数を対応件数に置き換えていただきたい。いじめが発展する前に対応している。いじめが無くなると良いが、児童生徒間

のトラブルはゼロにならない。いじめの定義は法的に規定されているため、指標にはカウントせざるを得ないが、表現について検討したい。

委 員： 加古川市の不登校の人数や割合は公開されているか。

事 務 局： 不登校については、メンタルサポート事業の事務事業評価シートで触れている。

事 務 局： 令和5年度の不登校の人数は小学生 279 名・中学生は 455 名、合計 734 名になっている。不登校率は小学校 2.11%、中学生 6.59%でいずれも毎年増加している。

教 育 長： この度の評価について結果だけを見ると、ほとんど A・B 評価で、取組に問題が無いような形になっている。

C 評価をつけることを躊躇するのではなく、課題があり、工夫や改善が必要なのであれば、C 評価をつけ、それに対して具体的な予算を含めた対応を来年度以降に取り組むという形にすべきである。

相当な労力をかけて取組の評価を行っているが、それを実効性あるものにするためには、課題については然るべき評価を行い、成果指標のあり方も含めて検討が必要だと感じている。

P D C A サイクルがうまく機能するような点検評価にするため、来年度以降思い切った成果指標の見直しや評価が必要と感じる。そのような意識を持って取り組んでいきたい。

事 務 局： 今回の資料においては、一部表現を修正すべき点があったため、次回の教育委員会で修正したものを改めてお示しし、再度協議を行いたい。

2 加古川市文化財審議委員の委嘱について

(教育指導部次長から説明)

原案可決

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

11 月 7 日 (木) 午後 2 時から開催することに決定

○ 教育委員諸報告

〔土屋委員から〕

(1) 平田オリザ先生の講演会について

平田オリザ先生の「コミュニケーションをデザイン化する」というテーマの講演会に参加した。コミュニケーションデザインはグローバル化する社会の中で働くために求められると思われがちだが、本当に必要な理由を先生は「若者が残された人生を幸せに生

きるため」と話され、改めてそのとおりだと感じた。

日本の高校教育における芸術は美術・音楽・書道だが、多くの外国では書道の代わりに演劇が取り入れられている。演劇はコミュニケーションに通じる。

今回の講演で伺った「コミュニケーション」という言葉の本当に必要な理由を意識することで、皆さんの今後の人生がより良いものになればと思う。

〔小林委員から〕

(1) 東京オリンピック・パリオリンピックに出場したツバル代表選手の活躍について

東京オリンピック開催前に、ツバルが加古川市で合宿を行った際に出会った代表選手がいる。彼は陸上競技で東京オリンピックに出場したが、最下位の結果となった。彼とは競技後に会場で健闘を称える約束をしていたが、コロナ禍のため、私が会場に入ることができず、声をかけることすら叶わなかった。

その選手はパリオリンピックにも出場し、前回よりも順位を一つ上げる成績を残した。私は彼と再会し、健闘を称えることができた。彼の成績はオリンピックとしては優れたものではなかったが、ツバル記録を更新するものであり、彼はそのことを心の底から喜んでいて、帰国した際も英雄として祝福されたことを聞いたとき、私は涙が止まらなかった。

現在、私は少年院での教育に携わっているが、わからない問題があった時に、恥ずかしさから黙ってしまったり、わかったふりをしてしまうような仕草を見ることがある。

誰一人取り残さない教育が求められる中で、ツバル代表選手のように1番であることが全てではないというアクションが今後進められることを願っている。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 志方中学校区学校運営協議会からの意見申出書の提出について

志方中学校区学校運営協議会から、志方地区における義務教育学校設置の要望があったことを報告した。

委 員 : 義務教育学校化にあたって、児童生徒数の推移など、規模感を示して欲しい。

事 務 局 : 次回報告する。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 東播地区中学校新人体育大会について

各種目における開催日・会場について報告した。

(2) 令和6年度 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」(後期)実施について
開催予定について報告した。

(3) 全国学力・学習状況調査結果のリーフレットについて

全国学力・学習状況調査結果より、成果や課題等を示したリーフレットを作成した。

委員：協議事項である「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」において、学識経験者である澤田准教授から協同的探究学習について、「児童生徒については取組の成果が見られる一方で、指導方法を改善した学校の割合が11.7%減少したことについて、原因を明確にし、次年度以降の取組に活かしていただきたい。」とのコメントを頂いている。

学校現場において後退が見られることについて危惧を感じる。しっかりと対応していただきたい。

事務局：教職員の授業の質の向上に向けた研修・助言を行いたい。

(4) 第4次「子どもの読書活動推進計画」の策定について
令和7年度を初年度とする計画策定にかかる取組について報告した。

委員：コミック・漫画は読書に含むのか。

事務局：加古川市では含まない取扱いとしていると考える。

なお、加古川市の図書館は基本的に漫画を置いていないが、両荘みらい学園の図書館には有名な漫画の英語版等を置いている。

委員：図書館に置かなくても良いと思うが、個人的に子どもの読書を取り上げる際には漫画を含めても良いと思う。歴史を取り扱った漫画が歴史を知る良い資料になるケースもある。検討して頂きたい。

以上、4件について報告

○ 閉 会 午後4時35分